

大学コンソーシアムやまがた幹事会（平成 21 年度第 5 回）議事録

日 時 平成 22 年 2 月 9 日（火） 13:30～15:00

場 所 山形大学事務局第二会議室

出席者 委員長 小山 清人（山形大学）

副委員長 小笠原信順（県立米沢女子短期大学）

那須 一彦（山形短期大学）

委 員 下平 裕之（総務運営委員会委員長／山形大学）

津田ひろ子（学術情報部会長／山形大学）

鈴木 英一（山形大学）

富樫 栄一（東北公益文科大学）

長谷川守男（羽陽学園短期大学／田中ふみ子委員代理）

平 洋一（県立産業技術短期大学校）

舟越 利弘（県立農業大学校／竹田耕平委員代理）

今田 秀喜（山形県）

欠席者 副委員長 五十嵐 眞二（東北芸術工科大学）

安達 幸世（県立保健医療大学）

委 員 久米 和興（教育連携部会長／県立保健医療大学）

呉 尚浩（地域活動部会長／東北公益文科大学）

中島 勇喜（最上川学プロジェクト推進委員会委員長／山形大学）

加藤康志郎（鶴岡工業高等専門学校）

山崎 彰（事業評価委員会委員長／山形大学）

柴田 洋雄（放送大学山形学習センター）

議事に先立ち、委員長から、東北芸術工科大学の工藤副委員長に代わり同大学の五十嵐事務局長が副委員長となった旨及び山形大学大学連携推進室の横井教授がオブザーバー出席している旨報告があった。

次いで、委員長から、本日の議事録署名人を県立米沢女子短期大学の小笠原委員と山形大学の鈴木委員にお願いしたい旨提案があり了承された。

[報告事項]

- 1 臨時総会（12/22）について
- 2 学長懇談会（1/20）について
- 3 平成 20 年度選定「戦略的大学連携支援事業」に関する文科省ヒアリングについて

事務局から資料 1 から資料 3 に基づき報告があった。

[協議事項]

1 山形工科短期大学校からの入会申し込みについて

事務局から資料4に基づき報告があった後、意見交換・質疑応答が行われ、委員長から諮られた結果、正会員としての入会を決定し、会長から通知することとなった。

主な意見交換の内容は以下の通り。

- 入会を希望する目的は何か？  
→ 学内の教員、学生にコンソーシアム加盟の大学等の教員、学生と交流させたいと聴いている。
- 今後も他大学等から申し込みがあった場合は基本的に入会を認めるのか？  
→ 会則に会員規定があるが、今後何らかの判断基準を設ける必要があると考えている。

2 第2期大学コンソーシアムやまがた事業計画(案)について

下平委員（事業計画策定WG座長）から、前回幹事会以降の経緯について説明があった後、横井オブザーバーから資料5に基づき委細説明があった。

次いで、意見交換・質疑応答が行われ、委員長から諮られた結果了承され、次回総会に提案することとなった。

なお、委員長から、次回幹事会までに各部会等から来年度の「顔となる事業」に引き継ぐべき事業を回答願いたい旨依頼があった。

主な意見交換・質疑応答の内容は以下の通り。

- 22年度事業の進め方についてもう少し説明願いたい。  
→ 本日の幹事会終了後、各部会等に21年度事業報告(案)や22年度事業として幹事会へ引き継ぐ事項を照会し、次回幹事会(3/26)で審議することとしたい。
- 「コンソーシアムの顔となる事業」のイメージは？  
→ まだ明確ではないが、順番としては、昨年の事業評価結果を受け、顔となる事業の柱を立て、予算の制約と引き継ぐ事業を考慮しながら決定していくことになる。

3 新大学コンソーシアムセンター(仮)の設置に向けて

事務局から資料6に基づき説明があった後、意見交換・質疑応答が行われ、委員長から諮られた結果、一部修正した上で総会の書面審議にかけることが了承された。

主な意見交換・質疑応答の内容は以下の通り。

- 本校は予算主義で来年度予算要求はできない。  
→今回は初年度なので負担できる大学等からケースバイケースで負担いただきたい。  
また、補助金も想定しているが、仮に充当できなくても各大学等の負担が増えることはない。
- コンソーシアムの事務局も移動するのか？  
→そのように考えているが、難点は駐車場がないこと。当面は別途駅前の駐車場を利用いただくことになる。
- 秋田では、コンソーシアムとしてだけでなく、個別大学等のイベントにも活用していた。このセンターもそのような利用を考えているか？  
→なるべく多く利用していきたい。できれば5月の連休後にも開所式を行いたい。
- 幹事会ではどこまで決定するのか？資料に「予定」と記載されると、記載されている数の大学等が支出を予定していると対外的に誤解を招く恐れがある。  
→資料6の収入欄の2大学以外の負担額は削除するが、個別大学の負担の可否（額も含む）は事務局で把握することとしたい。
- 月50万円の家賃を払うのであれば、「宝の持ち腐れ」にならないように活動する必要がある。  
→メインの活動は“学生のたまり場”をイメージしている。
- 駅前の人通りの多い場所なので、ディスプレイの仕方によって魅力的な広報の場になると思う。ただ、そのためにはセンスが大事。

[その他]

- 1 美しい山形から「もう一つの人造り」を目指して  
横井オブザーバーから、資料7に基づき説明があり、委員長から、本共同宣言はインフォーマルなものであるが、各学長等の連名によりアピールしたい旨の依頼があった。
- 2 最上川学フォーラムⅡ
- 3 教職員シンポジウム「山形発！魅力ある大学職員」
- 4 中国黒龍江省への山形県青年訪問団について  
事務局から、資料8～資料10に基づき報告があった。
- 5 次回開催について  
委員長から、次回は3月26日(金)13:30～15:00に同会議室で開催することが確認された。

以上

【配付資料】

- 資料 No. なし 幹事会委員名簿  
" 大学コンソーシアムやまがた幹事会 (12/14) 議事録
- 資料1 平成 21 年度大学コンソーシアムやまがた臨時総会議事録  
資料2 学長懇談会関連資料  
資料3 平成 20 年度選定「戦略的大学連携支援事業」に関する文科省ヒアリング関連資料  
資料4 「大学コンソーシアムやまがた」への入会申し込みについて  
資料5 第 2 期大学コンソーシアムやまがた事業計画(案)の概要  
資料6 新大学コンソーシアムセンター(仮)関連資料  
資料7 美しい山形からもう一つの人造りを目指して  
資料8 最上川学フォーラムⅡチラシ  
資料9 教職員シンポジウム「山形発！魅力ある大学職員」チラシ  
資料10 中国黒龍江省への山形県青年訪問団の参加概要
- 参考資料 大学コンソーシアムやまがた会則

議事録署名人

山形大学理事・副学長

小山 清人



山形県立米沢女子短期大学事務局長

小笠原 信順



山形大学企画部長

鈴木 英一

